



「夕暮れ迫る襟裳岬の空」 撮影者：川島 吉政

POST CARD



日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念フォトコンテスト
「日高山脈とともに生きる」受賞作品

川島 吉政 【夕暮れ迫る襟裳岬の空】

日高山脈襟裳十勝国立公園の最南端に位置し、日高山脈が太平洋へと沈み込む場所にあたる襟裳岬。ここはオンネエングルムとして、アイヌの物語や伝承、祈りの場、言語に彩られた優秀な景勝地である国指定名勝「ピリカノカ」（アイヌ語で「美しい」「形」を意味）の指定も受けている。雄大な景色と文化的背景に触れられる場所だ。

製作：環境省北海道地方環境事務所

National
Parks
of Japan





「襟裳岬の海と伝統的昆布漁の風景」 撮影者：えげせてね。

POST CARD



日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念フォトコンテスト
「日高山脈とともに生きる」受賞作品

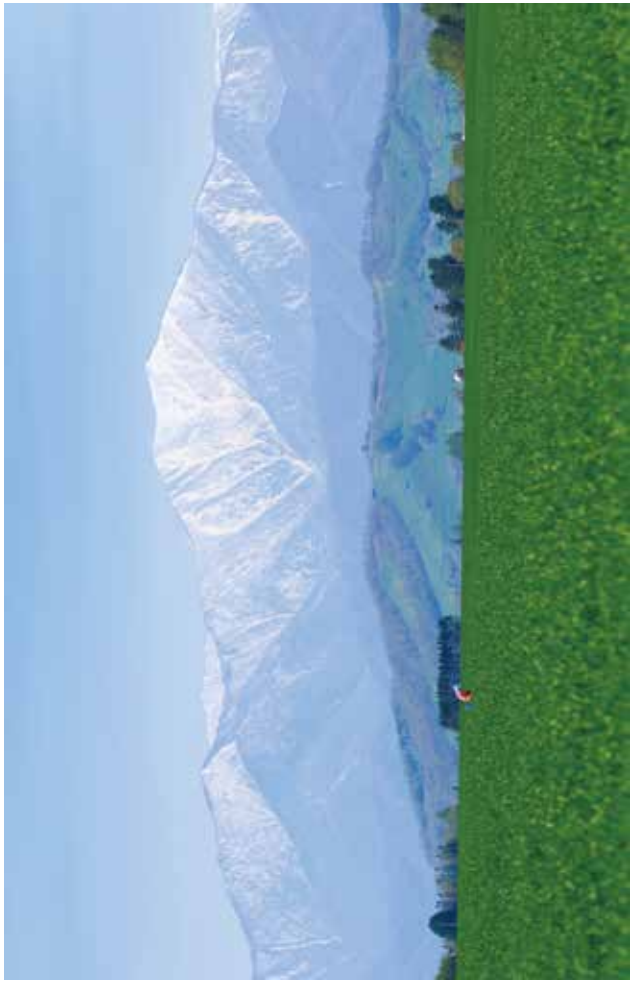
えかせてね。【襟裳岬の海と伝統的昆布漁の風景】

襟裳岬では、7月上旬から9月頃まで日高昆布漁が行われ、多くの船が日の出とともに海へ出ていく。伝統的昆布漁は漁師たちの生業であり、ここで暮らす人々の生活が自然とともに育まれてきたことを物語っている。夏、青い空のもと、壮大な自然を背景に昆布漁に動しむ人々の姿は、日高山脈襟裳十勝国立公園一えりもの海の風物詩だ。

製作：環境省北海道地方環境事務所

National
Parks
of Japan





「『カチポロ』に抱かれて」 撮影者：nakano.h1964

POST CARD



日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念フォトコンテスト
「日高山脈とともに生きる」受賞作品

nakano.h1964 [「カチポロ」に抱かれて]

地域の人々の原風景となっている日高山脈。カチポロの略称で親しまれる十勝幌尻岳は、標高 1,800m 級ながら、十勝平野へ支脈として突き出すため、ひととき大きく、高くそびえる。冠雪が残る春、厳しい冬を越えて、営みを再び始める人々を、雄大な日高山脈が威風堂々と見守る。日高山脈とともに生きる人々の姿が映し出されている。

製作：環境省北海道地方環境事務所

National
Parks
of Japan





「skovla」 撮影者：北井 佑典

POST CARD



日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念フォトコンテスト
「日高山脈とともに生きる」受賞作品

北井 佑典 [skovla]

平野から眺める雪化粧した日高山脈とはまた違った表情を見せるトヨ二岳。強風によって描かれた雪紋が自然の造形美を引き立て、稜線の奥行きを演出している。日高山脈襟裳十勝国立公園は、夏山登山も上級者向け、冬季はなおのこと、安易には挑めない。稜線右側に伸びる雪庇から、冬山登山の厳しさと緊張感が伝わってくる。

製作：環境省北海道地方環境事務所

National
Parks
of Japan





「へその緒のぬくもり、海の子」 撮影者：出口 大芳 hiro_hokkaidou

POST CARD



日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念フォトコンテスト
「日高山脈とともに生きる」受賞作品

出口 大芳 hiro_hokkaidou 【へその緒のぬくもり、海の子】

北海道の東部沿岸から襟裳岬にかけて分布し、定着性で安定的に繁殖しているゼニガタアザラシ。岩礁上で出産するからこそ間近に見られる、母子で過ごす幸福な時間は、アザラシの子育ての季節（春）だけの特別な光景。日高山脈襟裳十勝国立公園一えりもの海では、豊かな生態系の中、命が循環している様子を目にすることができる。

製作：環境省北海道地方環境事務所

National
Parks
of Japan





「Pyramidal」 撮影者：RED PEAK

POST CARD



日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念フォトコンテスト
「日高山脈とともに生きる」受賞作品

RED PEAK [Pyramidal]

日高山脈最高峰の幌尻岳（ポロシリ）の肩から戸鶯別岳を望む。日本百名山最難関ともいわれる幌尻岳に至るには、ルートによっては十数キロの林道歩きや数多の渡渉等を要し、人を容易に寄せ付けない。それゆえ、原始的で手付かずの自然が残されており、美しい山々、広がるカール、可憐な花々が困難な山行を乗り越えた者を迎えてくれる。

製作：環境省北海道地方環境事務所

National
Parks
of Japan

